

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	13-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Alcohol quantity and type on risk of recurrent gout attacks: an internet-based case-crossover study. 再発性痛風のリスクに対するアルコールの量と種類について：インターネットに基づいたケースクロスオーバー研究</p>		
執筆者		
Neogi T, Chen C, Niu J, Chaisson C, Hunter DJ, Zhang Y.		
掲載誌		
Am J Med. 2014 Apr;127(4):311-8. doi: 10.1016/j.amjmed.2013.12.019.		
キーワード		PMID
痛風発作の再発、アルコール、ケースクロスオーバー研究		24440541
要 旨		
<p>目的： ビールと蒸留酒が痛風の発症リスクと関連していることは知られているが、ワインは関連していないとされている。しかし、痛風発作の誘因と考えられている。さらに、どれくらいのアルコールの摂取で痛風のリスクが高まるかについては明らかにされていない。本研究では痛風発作の再発リスクに関して、アルコールの量と種類についての調査を行った。</p> <p>方法： アメリカにおいて痛風患者で一年間のフォローアップ中に少なくとも最低 1 回でも痛風発作を起こした参加者を対象に、前向きなインターネットベースのケースクロスオーバー研究を実施した。潜在的な経時的変化の交絡因子を調整した上で、痛風発作の再発と 24 時間以内のアルコール摂取、アルコール飲料の種類との関連を検討した。</p> <p>結果： 痛風がある 724 名を対象とした。78%が男性、平均年齢は 54 歳であった。痛風発作の再発リスクとアルコール摂取との関連は、有意に飲酒量に依存した ($p < 0.01$)。また、24 時間以内のアルコール未摂取者と比較すると 1~2 単位、2~4 単位のアルコール摂取者は、それぞれ HR が 1.36 (95%CI1.00-1.88)、1.51 (95%CI1.09-2.09) であった。ワイン、ビール、蒸留酒のそれぞれは痛風発作のリスクの増大と関連していた。</p> <p>結論： 一時的なアルコールの飲酒は、アルコールの種類にもかかわらず、比較的中等量で痛風発作の再発のリスクの増大と関連していた。このことから痛風の患者は飲酒量を制限することで痛風発作の再発のリスクを減少させることができるだろう。</p>		